

ふるさと ～ みや の おまつり ～

まいとし あき 毎年、秋になると、きし みや 喜志のお宮さんで
おまつりが あります。



きし みや 喜志のお宮さんは、ただしくは、
みぐくるみたまじんじゃ 美具久留御魂神社 といい、
こめづく みず お米作りにかかせない「水」と
かかわりがあるお宮さんのようです。

じんじゃ れきし ふる かくしき この神社の歴史はたいへん古く、格式もたいへん
たか 高いです。

くすのきまさしげ ちはやあかさかむら たけみくまりじんじゃ
楠 正成は、千早赤阪村にある「建水分神社」を
かみすいぶんじんじゃ たい きし じんじゃ
「上水分神社」とよんだのに対し、喜志の神社を
しもすいぶんじんじゃ
「下水分神社」とよんで うやまったそうです。

みず こめづく たいせつ 水はお米作りにかかせない、大切なものなので、こ
うして おまつりされるようになったのです。

また、お宮^{みや}さんから二上山^{にじょうざん}
が真東^{まひがし}に見^みえます。
春^{はる}と秋^{あき}の年^{ねん}2回^{にかい}、その二上山^{にじょうざん}
の真^まん中^{なか}から朝日^{あさひ}がのぼり
ます。 (⇒)



さらに、この神社^{じんじゃ}には、江戸時代^{えどじだい}の「朝鮮通信使^{ちょうせんつうしんし}」
の絵馬^{えま}があることで
も有名^{ゆうめい}です。(⇒)
「喜志桜井村^{きしざくらいむら}」と書^か
いてあるのがわか
ります。(櫻=桜)



朝鮮通信使^{ちょうせんつうしんし}とは、
江戸時代^{えどじだい}、朝鮮^{ちょうせん}から日本^{にっぽん}に定期的^{ていきてき}にやってきたお使^{つか}
いのことで、大名行列^{だいみょうぎょうれつ}のようにはなやかで、たくさ
んの人^{けんぶつ}が見物^{けんぶつ}したそうです。